

令和元年度 浦安市非核平和事業 実施報告書



浦安市 市民経済部 地域振興課

目次

1	はじめに	1
2	平和学習青少年派遣事業	
(1)	事業の概要	2
(2)	派遣事業の内容	4
(3)	平和使節団員 各団員の報告書	10
3	小学校・中学校における非核平和パネル展及び被爆体験講話	
(1)	被爆体験講話	46
(2)	非核平和パネル展	50
4	広島・長崎原爆被災展及び長崎の語り部による被爆体験講話	51
5	その他の平和事業	
(1)	親子平和バスツアー	52
(2)	横断幕及び電光掲示板での啓発	52
(3)	原爆展	53
(4)	黙とうの呼びかけ	53
6	資料	
(1)	非核平和都市宣言	54

1 はじめに

本市では、昭和60年3月29日に非核平和都市を宣言して以来、非核平和理念の市民への浸透と平和意識を高めることを目的に非核平和事業を行っています。

令和元年度は、令和元年8月に各市立中学校から選出された生徒18名を「浦安市平和使節団」として被爆地である長崎市に派遣しました。また、令和元年7月から令和2年1月の期間内に、市立小学校17校及び中学校9校で「非核平和パネル展」を、市立小学校17校で「被爆体験講話」を開催しました。

この他にも、市庁舎における「原爆展」と「広島・長崎原爆被災展」の開催、また、駅前における「非核平和街頭啓発キャンペーン」の実施、「原爆投下日の黙とうの呼びかけ」、文化会館における「市民向けの被爆体験講話」の開催など、様々な非核平和事業を実施しました。

さらに、被爆者団体「浦安被爆者つくしの会」への補助金交付を通じた非核平和活動への支援などを行いました。

今後も、本市では、次代を担う子どもたちをはじめ市民の皆様に非核平和の尊さをお伝えするため、様々な非核平和事業を実施してまいりますので、御協力をいただければ幸いです。

終わりに、本市の非核平和事業への参加者の皆様、事業実施にあたり御協力をいただきました浦安被爆者つくしの会、広島平和記念資料館、(公財)長崎平和推進協会、市立小学校・中学校の皆様に御礼を申し上げます。

2 平和学習青少年派遣事業

(1) 事業の概要

【実施内容】

全国の青少年とともにフィールドワークや平和交流会などを通して、被爆の実相と平和の尊さを知り、戦争や核兵器の無い平和な未来を築くことを目的に青少年派遣事業を実施しています。

本市の平和事業を推進していくうえで、21世紀を担う青少年を対象に、戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさ、そして平和の尊さを学ぶため、長崎市で開催される青少年ピースフォーラム[※]へ使節団として派遣しています。

※青少年ピースフォーラムとは

【目的】

全国から集まった青少年が、参加型平和学習を通して、被爆の実相や平和の尊さを学び、交流と相互理解を深める事業です。また、交流会では、学習のなかでは行えない各自治体の平和に関する取り組みや、街の特色などの紹介を行います。

【参加者】

全国の自治体が派遣する平和使節団。この他、長崎県内の小・中学生、高校生、長崎市青少年ピースボランティア（主に高校生・大学生のボランティア）が参加します。

【実施期間】

令和元年8月7日（水）～8月10日（土） 3泊4日

【参加者の役割】

- ①オリエンテーション(全2回)、派遣後の反省会及び報告会に出席する。
- ②派遣中は浦安市の代表であることを意識し、代表にふさわしい行動を心がける。
- ③課題に積極的に取り組むとともに、同世代の派遣者との交流を積極的に行う。
- ④小・中学校の児童生徒や市民が折った折り鶴をもとに、千羽鶴の作成に加わる。
また、その千羽鶴を長崎平和公園へ献納する。
- ⑤在籍する中学校で被爆体験講話が行われたときは、ピースフォーラムに参加した自らの体験をもとに、青少年の視点で、感想などを生徒に伝えるよう努める。
- ⑥派遣終了後、団員は1,600字程度の感想や記録をまとめ報告書を作成する。
- ⑦家庭、地域等において機会を捉え伝承していくよう努める。

【青少年派遣】

市立中学校9校から各校2名の生徒（学校長より推薦を受けて決定した計18名）を派遣しました。

【平和使節団員】

No.	学校名	派遣者	学年
1	浦安市立浦安中学校	澤 山 亜 依	3年
		相 馬 杏 樹	3年
2	浦安市立堀江中学校	呉 結 菜	3年
		東 川 美 咲	3年
3	浦安市立見明川中学校	田 窪 翔 太	3年
		米 井 み ゆ	3年
4	浦安市立入船中学校	小 川 真 奈	3年
		丹 治 こころ	3年
5	浦安市立富岡中学校	大 島 蓮 央	2年
		高 柴 由 奈	2年
6	浦安市立美浜中学校	高 山 彩 花	3年
		松 尾 晴 菜	3年
7	浦安市立日の出中学校	菊 島 大 輔	2年
		村 山 晴	2年
8	浦安市立明海中学校	堀 場 ゆりか	2年
		鈴 木 心々和	2年
9	浦安市立高洲中学校	石 渡 眞 英	2年
		安 原 千 代	2年



(2) 派遣事業の内容

【オリエンテーション(事前学習)】

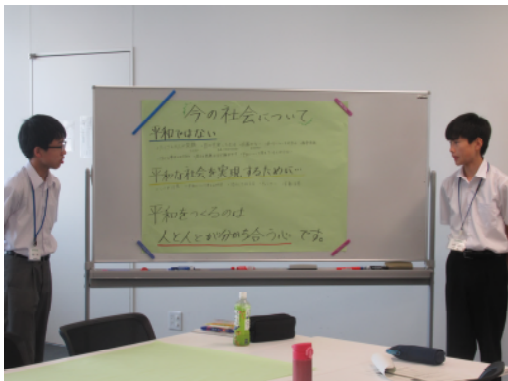
長崎へ行く前に2回の事前学習を行いました。広島・長崎に落とされた原爆について、平和についてのグループ学習や非核平和街頭キャンペーン、市長・教育長との結団式などを実施しました。



【グループワーク】



【グループワーク】



【グループワーク】



【非核平和街頭キャンペーン】



【結団式】



【結団式】

【派遣期間（3泊4日）のタイムスケジュール】

1日目



8月7日（水）

- 8:30 浦安市役所立体駐車場前ロータリーに集合
- 8:40 市のバスで、羽田空港へ
- 9:30 羽田空港到着
- 11:00 羽田空港発（ANA663）、機内で昼食（弁当）
- 12:45 長崎空港着
- 13:15 長崎市内までリムジンバスで移動
- 14:05 長崎駅前着
- 14:10 ホテル（長崎 異邦館）着、チェックイン
- 15:00 市内見学（グラバー園）
- 18:30 夕食（ホテルにて）／研修会（翌日の打合せ）
- 20:00 解散
- 22:00 就寝

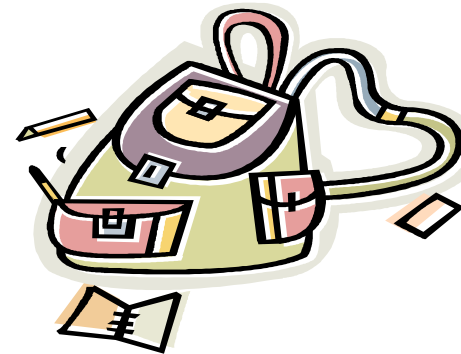


【グラバー園】

2日目

8月8日（木）

- 6:30 起床
- 7:30 朝食（ホテルにて）
- 8:20 ホテル出発
- 8:50 原爆落下中心地にて平和案内人と合流
- 9:00 班別フィールドワーク開始（平和案内人随行）
- 12:30 昼食（原爆資料館近辺のレストランにて）
- 13:30 平和会館にて青少年ピースフォーラム 受付
- 14:00 青少年ピースフォーラムに参加
 - ①被爆体験講話を聴講（平和会館ホール）
- 15:25 ②フィールドワークに参加（平和公園コース）
- 18:00 ③交流会 ※食事有（長崎新聞文化ホール）
- 19:30 青少年ピースフォーラム1日目終了
- 20:00 ホテル帰着／研修会（翌日の打合せ）
- 22:00 就寝



【青少年ピースフォーラムの内容（1日目：8月8日）】

①被爆体験講話

公益財団法人長崎平和推進協会継承部会に所属する被爆者による講話を聴講しました。

②被爆建造物等のフィールドワーク

団体毎（約10人）で1グループになり、原爆資料館周辺の被爆建造物や慰霊碑などを青少年ピースボランティアと一緒に見学し、被爆の実相を学習しました。
《フィールドワークコース：平和公園コース》

- ・原爆落下中心地（原爆落下中心地碑、浦上天主堂の遺壁、下の川ほか）
- ・平和公園（平和の泉、長崎刑務所浦上刑務所跡、平和祈念像ほか）

③交流会

青少年ピースフォーラムの参加者が自治体やコースの枠をこえて交流し、相互理解を深めました。

3日目

8月9日（金）

- 6:30 起床
- 7:30 朝食（ホテルにて）
- 8:30 ホテル出発（平和公園へ）
- 9:30 ④平和祈念式典に参列
- 12:00 昼食（平和公園付近のレストランにて）
- 13:30 ⑤平和学習に参加（長崎ブリックホール）
- 15:30 青少年ピースフォーラム2日目終了（市内見学へ）
- 17:30 ホテル帰着
- 18:30 夕食（ホテルにて）／研修会（翌日の打合せ）
- 22:00 就寝

【青少年ピースフォーラムの内容（2日目：8月9日）】

④平和祈念式典への参列

平和祈念式典へ参列し、原爆犠牲者の冥福、世界の恒久平和を祈りました。

⑤平和学習

1日目のフィールドワークで学んだことを踏まえ、被爆の実相についてまとめを行うとともに、グループでの意見交換を通して、平和の尊さについて考えました。

4日目

8月10日(土)

- 6:30 起床
- 7:30 朝食(ホテルにて)
- 8:30 長崎県立歴史文化博物館・立山防空壕見学
- 10:55 リムジンバスにて長崎空港へ
- 11:40 長崎空港着・昼食(弁当)
- 13:55 長崎空港発(ANA666)
- 15:45 羽田空港着
- 16:00 市のバスで、浦安市役所へ
- 17:00 浦安市文化会館前到着・解散



長崎での様子



【フィールドワーク】



【平和学習】



【千羽鶴の献納】



【交流会】

【平和使節団員の派遣報告】

長崎の語り部被爆体験講話に合わせ8月に長崎で行われた青少年ピースフォーラムへ派遣された浦安市平和使節団による報告会を行いました。

事前のオリエンテーション、長崎での出来事、派遣前と派遣後での自身の考え方の変化などについて、それぞれの言葉でまとめ、スライド写真を交えながら報告しました。

【開催日時】

令和元年9月29日（日） 午後3時30分～

【開催場所】

文化会館 大会議室



(3) 平和使節団 各団員の報告書

「長崎派遣を通して学んだこと」 澤山 亜依

私達、浦安市平和使節団はこの長崎派遣を通してたくさんの場所をめぐり、いろんなものを見て、聴いて、感じて学んで来ました。私がこの派遣に参加した理由は本や写真だけではなく、実際に見て長崎で起きたことについて知りたかったからです。そして、この4日間で戦争の悲惨さ、平和の尊さを深く学ぶことができました。

班別フィールドワークでは事前学習などをしてきた班の仲間や平和案内人の方と共に、原爆落下地周辺や浦上天主堂、永井隆記念館、山里小学校などを見学しました。浦上天主堂はキリスト教徒の方々が時間をかけて建てた教会でした。しかし、今は素敵な教会が再建されましたが、原爆が落ちた日、一瞬のうちに爆風で一部を残して壁や石像は崩壊してしまいました。そして、その時に落ちてしまった鐘楼ドームを事前に調べていたのですが、自分が想像していたよりもはるかに大きかったです。当時の記録に、夜の大火災により川底へと崩落し、付近の防空壕で過ごしていた人たちは物凄い地響きに不安を覚えたとあるのですが、あれほど大きいドームが落ちたら記録の様に物凄い地響きがなると思うし、とても怖かったのではないかと思います。永井隆記念館ではそばにある如己堂などを見学しました。如己堂とはたたみ二畳ほどの小さな部屋で、博士はこの部屋で寝たまま原爆による病気の研究をしたり、原爆や戦争のおそろしさや命、平和の大切さを、本を書くことで訴えました。永井さんは長崎医科大学を卒業後に医学博士となりました。しかし白血病と診断されたのと同じ年、原爆は落ちました。博士は勤務中に被爆、妻の緑夫人は亡くなってしまいました。それでも博士は大けがを負っているにも関わらず救護活動を行いました。そして翌年、病状が悪化、寝たきりとなってしまいます。しかし、博士は如己堂に移り住んでからたくさんの本を書きます。博士は亡くなるまでに17冊の本を書きました。そしてこの本は人々に生きる希望と勇気を与えました。博士は最後まで再び争いが起きないよう願い続けていました。いつか博士の思いが多くの人へ広まり、この世界から戦争がなくなることを祈っています。

青少年ピースフォーラムでは、始めに被爆体験講話を聞きました。話して頂いたのは当時18歳だった築城さんです。築城さんは空襲警報が発令されても防空壕に避難せず、部屋で破片よけの厚手の布団を被って寝ていました。その時、原爆

は落ちてきました。爆風でどこかに叩きつけられ、けがを負った体で防空壕に避難しようとしたが、部屋の中は真っ暗で方角が全く分からなかったことなどを話して頂きました。実際に被爆した方の話を聞いて原爆のおそろしさ、被害の大きさがよく分かりました。私が想像していたよりも辛く大変な思いをして生きてきたことも分かりました。築城さんが話していたことを、次の世代へも語りついでいきたいと思いました。その後、ピースボランティアの方のガイドで原爆中心地周辺や平和公園内をまわりました。そして翌日、平和記念式典に参列し、参加型平和学習へ参加しました。全国の学生と平和に対する意見を交換しました。みんなそれぞれの考えがあり、たくさんの考えが知れました。しかし、戦争、原爆がなくなしてほしいというのはみんな一致の願いでした。

私は今回の長崎派遣に行かなければ知らないことがたくさんあったし、行ってよかったと思っています。行く前よりも平和に対する考えがより深まりました。今回学んだことを基に、身近な人へ戦争のおそろしさ、平和の尊さを伝え、発信していきたいと思います。

「長崎と原爆と人」 相馬 杏樹

1945年、8月9日、午前11時02分長崎市内に原爆投下。一瞬にして、何もかもが消え去っていった。

小学生の頃、社会の授業で、「戦争」の単元が一番きらいだった。理由はわからない。たぶん、自分の大叔父が、戦争で亡くなっているから、といったところだろうか。だが、今回こうして「戦争」について学べる機会を通して、勇気を出して学んでみようと思った。「写真」や「口」といったフィルターを通して、どうしても実感というものがわからない。しかし、実際に「その場所」に行ってみると、言葉では表せない、肌で感じるものがたくさんあった。

私たちが過ごした4日間はとても暑かった。日中は常に30度を超えていたのではないだろうか。きっと、74年前も暑かったに違いない。特に、8月9日は。原爆から放出される熱は、およそ3,000度～4,000度。鉄が溶ける温度が1,500度だとすると、およそ2倍。私たちが暑いと感じる30度のおよそ100倍である。想像もできない熱さである。人の肌など簡単に焼けてだれてしまう。平和公園内に、「平和の泉」というものがある。これは、水を求めて亡くなった人たちへ向けたものである。あの日、肌が焼けただれた人たちが、水を求めて、油の浮いた川へと向かって、亡くなっていった。私は実際に爆心地近くの川へ行くことができた。今はとてもきれいになっていて、ふつうの川なのだが、何か、何か感じるものがあった。本当に言葉では表せないものなのだが、ああ、ここに、たくさんの人がいたのだろうか、と肌で感じた。わけもなく、涙が出てくるような実感を覚えた。74年、きっと100年経っても、あの場所にはたくさんの人の「想い」が残っているのだ、と本当に自分の肌、体で感じた。

2日目の原爆ドームで、一番印象に残っているのは、ドロドロに溶けた「ロザリオ」である。私は趣味の関係で、長崎の隠れキリシタンについてとても興味があった。それゆえ一番胸が苦しくなった。浦上天主堂では、祈りを捧げていた全員が、倒壊の下敷きとなって亡くなった。教会とは、神とは、祈りとは自分が愛する人を救ってもらうために、捧げるもののはずではないだろうか。それなのになぜ、あまりにも無慈悲ではないか。長崎は貿易が盛んに行われていたため、キリスト教徒も大勢いた。しかし、鎖国に伴い、ひどい弾圧に苦しめられることになる。しかし、キリシタンは信仰をやめることなく、樂園に行けることを願い続けていた。天草・島原一揆などは、キリシタンの一揆として有名である。島原の乱でも、たくさんの罪のない人の命が落とされた。そうして苦しみながらも救い

の手がいつか自分に届くと信じていた。しかし、キリシタン弾圧から300年経って、また罪のないたくさんの方が命が失われた。本当に、神とは何なのか、と問いたくなくなってしまった。そんなやるせない気持ちになった。

最後に、今回の研修を経て、戦争を二度と繰り返さないために、しっかり学ぶことが大切だと思った。目を背けることなく、実際に起こってしまった悲劇を受け止めることが、重要なのだと。その上で、自分にできることをしよう、と思った。そして、実は身近なところに、「平和への願い」がたくさんあるのだと気づいた。私がおどろいたのは、映画の「ゴジラ」である。ゴジラは、人間が生み出した「核兵器」によって生まれた怪獣だったのである。この世界から「核」を無くす。長崎を「最後の」核被爆地にする。長崎で何度も聞いた言葉だ。私は、本当に少しかもしれないが、ゴジラなどの映画、娯楽、また自分の口や文字を通して、たくさんの方に、この長崎の人々の願いを伝えられる大人になれるようになりたい。

「長崎を最後の被爆地に」 呉 結菜

私は、今回、浦安市の代表として長崎に派遣されました。3泊4日の期間でより深く平和について考えることができました。今回は、私が学んだ平和について書きます。

まず、長崎に派遣される前、平和とは何なのか、自分なりに考えてみました。私が考える平和とは世界中が仲良く笑顔でいられることだと思っていました。他の派遣される子たちも同じような意見でした。でも、実際、長崎に行って色々な地域の子どもたちの意見を聞いて、平和に対する考えが少し変わった気がします。

長崎派遣2日目に、現地の方に被爆落下中心地付近を案内していただきました。私たちのグループは、4カ所の被爆建造物をまわりました。その中でも特に印象的だった被爆建造物が、旧城山国民学校でした。その学校の敷地内には嘉代子桜という桜が植えられています。嘉代子桜についてのお話を少しします。夏休みに城山学校に学徒報国隊員として働きにきていた林嘉代子さんは当時16歳でした。原爆が投下された1945年8月9日の11時2分、林嘉代子さんは城山学校で働いて亡くなりました。一発の原子力爆弾で学校にいた28人の教員、3人の庁務員、学校に居た三菱兵器製作所員58人、挺身隊員12人、学徒報国隊員42人が亡くなり、生き残ったのはわずかに教員3人、兵器製作所員9人、挺身隊員2人、学徒報国隊員4人でした。亡くなった林嘉代子さんは桜が大好きでした。そこで林嘉代子さんの母林つえさんが平和への願いをこめて、城山学校に桜の苗木をおくりました。嘉代子さんのために植えられた桜という意味から嘉代子桜という名前になりました。被爆された旧城山国民学校は建物の一部が残されており、被爆でなくなった地には、現在、城山小学校があり、毎日、小学生が元気に登校しています。そして、その敷地内には2代目の嘉代子桜も植えられています。私はこの話を実際に嘉代子桜の前で聞きました。1つの爆弾でこんなにも多くの方々が亡くなってしまう、長崎を最後の被爆地にしなければなりません。

2日目、3日目には全国の小中学生が参加するピースフォーラムに参加しました。実際に長崎で被爆された方の話を聞いたり、長崎の高校生や大学生のボランティアさんが実際に被爆地をまわって案内してくれるフィールドワークも行いました。3日目の8月9日には、平和祈念式典と参加型平和学習に参列・参加しました。参加型平和学習では、色々な地域の子と交流しながら平和について考えました。私はみんなの意見を聞く前までは、平和とは世界中が仲良く笑顔でいられることだと思っていましたが、宮城県から来ていたある一人の女の子が平和とは

核兵器がなく国や国境が存在しないことと書いていました。その意見を聞いてなるほどと思いました。そもそも争いがあったから国や国境ができてしまったなら、国や国境をなくして世界が仲良くすればよいのではないかと思いました。その前にやるべきことは世界から核兵器をなくすことです。まずはたくさんの人に核兵器の恐ろしさを知ってもらうことです。実際、長崎に投下された原子爆弾ファットマンは、東京ドーム2個分を破壊することができる力を持っています。今、世界には1万6千発以上の核兵器があるとされています。例えば、ファットマンが1万6千発世界に投下されたから平和になるでしょうか。核兵器が投下されても絶対平和にはなりません。長崎を必ず最後の被爆地にしなければなりません。そのために今からできることをしていくべきです。世界を平和にするために。

「平和について報告」 東川 美咲

私は、長崎県に行くまで、平和に対する考えは、戦争がおきなかったら、核兵器を使わなかったら、友達とケンカすることがなかったら、平和なのではないかと思っていました。でも、長崎県に行ってみて、原子爆弾のことなどの色々な話を聞いたら、私が長崎県に行くまで平和だと思っていたことも平和になるためには大事だと思ったけど、やはりそうなのだなと思い、考えはあまり変わりませんでした。

派遣事業全体を通して私が平和について感じたことは、戦争をしていたころの日本人の生活の話を聞いたら、好きなことが自由にできたり、お腹いっぱいご飯を食べることができたり、学校に行って勉強したり、友達と話したりできる当たり前の生活がとても幸せで平和であると思ったし、戦争に比べると友達とケンカすることなんてすごく小さいことだと感じました。

派遣事業全体を通して私が平和について学んだことは、あんなに大きな物を一瞬で破壊し、たくさんの人の命を奪った原子爆弾、実際に行ってみて、それを見たとき、今の私たちの生活はとても幸せであると思ったし、この幸せが続くように、もう二度と原子力爆弾が投下されないようにと考えるきっかけをつくれたし、学ぶことができました。

私が、今後、この事業での経験を活かしてやってみたいことは、家族や友達、地域の人達など戦争についてや原爆についてあまり知らない人もいると思うので、全員が長崎県に行って実際にみることは難しいので、私たちが学んできたこと、感じてきたことを、伝えられたらなと思ったし、平和を呼びかけるキャンペーンみたいなのもやってきたいと思ったし、市内全体で平和について考える機会やイベントをつくるのもすごくやってみたいと思いました。

今回の長崎派遣事業では、色々な県から集まって平和について話し合う機会がありました。そこで、あなたにとって幸せに感じるときはいつですかという質問のときに、一人一人幸せに感じる時がちがくて、でもその意見に対して共感できてすごく幸せだったし、平和だなと思えました。

この派遣事業を通しての私の感想は、もう二度と戦争をしてほしくないし、原子爆弾みたいな威力の強い、人や建物などを一瞬のうちに焼き尽くすものをもう作らないでほしいと思いました。

「長崎を最後の被爆地にしよう」。この言葉が一番心に残りました。そう願っている人達がいる中で、原爆についてよく知らない人もいるので、すこしでも多く

の人にそう願ってもらえるため、原爆についてもっと詳しく知ってもらうために、まずは私から長崎に一緒に行って学んできた仲間と周りの人からでもいいから、伝えていきたいと思いました。今、こうやって当たり前で生活できていること、この経験で改めてとても幸せなのだなと思えました。こんなに貴重な経験ができたのもとても良かったです。この経験を活かしてこれからも当たり前の生活を大切に生きていきたいなと思いました。最後に、この世界から核兵器がなくなり、全員が安心、安全に暮らせる日がきてほしいと思いました。

「派遣報告書」 田窪 翔太

私の祖父は長崎県諫早市出身です。祖父はすでに他界してしまいましたが、私が幼いころ戦争の体験談を話してくれました。私が実際に長崎で体験をしたことは祖父から聞いた話よりも想像を遥かに超えた悲惨なものでした。

今回の事業で特に心に残ったことは被爆体験講話です。長崎や広島のように原爆が投下された地に行くのは初めてで、被爆者の方の話聞くのも初めてでした。今回のように被爆者の方から話を聞くことができるのは大変貴重なことでした。原爆が投下された日、爆心地から1.8キロメートルのところでした。その時刻は夜勤に向けて寝ていて、突然の空襲に備えて布団を頭からかぶっていたため、一命を取り留めました。爆心地からこんなにも近くにいた方の体験談は、学校の授業や教科書からはまったく想像のできない世界で恐ろしく悲しい内容でした。また、世界から核兵器がなくなることは難しいかもしれないが、核兵器がどれほど恐ろしいものかだけは、わかってほしいとおっしゃっていました。

私たち日本人が唯一の被爆国として世界に訴えるべきだと思います。原爆が投下されてから74年経っていて、被爆者の方々もだんだんと少なくなっています。だからこそ、私たちが積極的に平和について学び、伝えていくべきだと思います。

次に班別フィールドワークについてです。私は、爆心地公園、長崎医科大学、山王神社へ行きました。まず、爆心地公園では防空壕が残っていました。防空壕を見たことが無かったので、実際に見たときは少し驚きました。敵の空襲から身を守るためのものだから、もっと頑丈な造りになっているのかと思いました。しかし、掘っただけの様な簡単な造りでした。また、それ以外にも防空壕にはいくつかの工夫が施されていたことにも驚きました。例えば、出入口が二つあることです。これは片方の出入口が瓦礫などで塞がってしまっても、もう片方を使うことができるからだそうです。

長崎医科大学では、正門と配電室を見に行きました。正門は爆風によって片方が崩れていました。しかし、配電室は大きな被害はありませんでした。そのため今でも中を改装して外国人学生や研究者の宿泊施設として使用されているそうです。私はこのような被爆した建物を解体するのではなく、もっと残しておくべきだったと思います。なぜなら、原爆の破壊力を実感することができるからです。

この派遣に行く前は原爆について「こんなことがあったんだ」としか思っていませんでした。しかし、今回、行ってみると三つの感情を抱きました。

私が長崎で学ぶ中で原爆を投下した理由についてです。アメリカは核実験をす

るために日本に投下しました。これを聞いた時は言葉も出ませんでした。実験のために何十万人もの死没者をだす必要があったのかと思います。命はいくつもあるわけでもなく、軽いわけでもありません。原爆の投下は本当に必要であったかを考えてほしかったです。

次に、亡くなった中には、女性や子どもがたくさんいたことです。その人たちは戦争に参加したくなくても、国から強制的に戦争に参加させられていました。また、爆心地の近くに城山国民学校というところがありました。その学校の児童は、ほぼ全滅しました。戦争は無意味な人の命も奪っていきます。だから、二度と戦争をしてはいけなく、原爆を使用してはいけません。

私はこの四日間を通して、原爆の危険さや平和について詳しく学ぶことができました。ここまで語ったように原爆はとても恐ろしいもので、簡単に人の命を奪っていきます。原爆が投下されたということを私たち日本人は絶対に忘れてはいけません。そのために、私はこの先社会人になっても、次の世代に、今回、原爆について学んだことを伝えていきたいです。

「平和について学んだこと」 米井 みゆ

私は今回の平和学習で、「命の尊さ」や、「戦争、原爆の恐ろしさ」、「平和な世界をつくっていくために」など、たくさんの事を学び、深く考えました。

長崎へ到着してから2日目に行った班別フィールドワークで初めて原爆で被爆した建物を見ました。特にその中でも印象に残っているのは、原爆落下地点から一番近くにある「城山小学校」です。城山小学校には当時の様子や状況を絵にして飾ってありました。また、校庭にはたくさんの嘉代子桜という桜の木が並んでいました。案内人の方が「嘉代子桜」についてお話をしてくださいました。私はその話を聞いて、とても胸が張り裂けるような思いになりました。

全部回った後に、原爆ドームへ行きました。原爆ドームでは、長崎に落とされた原爆の模型や、被爆物などがありました。それは、とても悲惨で見えませんでした。今の時代がどんなに平和であるのかを改めて実感させられました。

原爆ドームを見学した後、当時、18歳だった被爆者の方のお話を聞きました。私は、小学校の時、被爆者の方のお話を何回か聞いたことがありますが、その中でも一番心に深く刻まれたお話でした。どんなに今を生きることが素晴らしいのか、命があるということはどんなに素晴らしいことなのか、色々なことを感じました。私は何があっても、二度と原爆、戦争をしてはいけないと思いました。

次の日、長崎の平和祈念式典に参加しました。被爆者合唱を聞いたとき、すごく原爆の恐ろしさ、今、生きていることの大切さを歌っているように感じました。すごく心に響く歌で、涙がでてきそうなくらい感動しました。そして、式典の中で最も心に残った事があります。それは、平和への誓いの『死ぬまで「核兵器廃絶を訴え続けます」』という言葉と、「長崎を最後の被爆地にするために皆さんの力を貸してください」という言葉です。私はこの言葉を一生、死ぬまで忘れないと思います。そしてもう二度と被爆地を増やさぬよう、長崎を最後の被爆地となるように、将来の世界を創り上げていく私達が世界に広めていくべきだなと思いました。人生の中で出会った全ての人達に伝えていきたいと思います。

式典が終わった後、青少年ピースフォーラムに参加して、平和の尊さを学びました。全国の人達と平和について話し合いをしていく中で、今の世界は平和ではないと言う人が多くいました。世界を平和にするために、今の自分に何ができるか、また、話し合いをしました。すると、戦争、原爆の恐ろしさを知って、核兵器の廃止を世界に呼びかけるべきだと言っている人が多数でした。私もそう思い

ます。世界唯一の被爆国である日本が、もっともっと世界に核兵器の恐ろしさを伝えるべきだと思います。このピースフォーラムで自分だけでなく、色々な人達と平和について考えることによって、考え方が増えたり、たくさんを知ることができました。今回、ピースフォーラムで出会った人達と、少しでも平和な世界を創るために自分にできることを少しずつ行っていこうと思います。

私は、この平和学習に行く前、戦争や原爆の恐ろしさについて、あまり深く考えたことはありませんでした。テレビや学校で、原爆で何百万人もの人達が亡くなったと言うことを聞いて原爆は恐ろしいものなのだからいいでした。実際、長崎に行って、色々な体験をしてみると、「恐ろしい」という言葉だけでは表せられないほど悲惨なものでした。また、普段、何とはなく生きていましたが、たまに長崎に行ったことを思い出して、生きていることに誇りをもとうと思うときが増えました。私みたいに、平和や戦争、原爆の恐ろしさについて深く考えてない人は少なくないと思います。なので、今回の経験を一人でも多くの人に知ってもらい、少しでも平和の尊さ、原爆、戦争の恐ろしさについて深く考える人が増えることを願っています。また、私自身もこの経験を機にたくさんの平和学習やボランティアに参加して、少しでも世界が平和になれるようにしたいです。

「平和とは」 小川 真奈

私は、この長崎平和学習に参加することが決まるまで、あまり平和について考えたことが正直ありませんでした。参加が決まった直後、学校で「原爆」をテーマにした道德の授業が行われ、様々な疑問が浮かびましたが、一つだけ自分の納得のいく答えが見つけれないものがありました。

「そもそも平和って何だろう？」

この答えを見つけるためにも長崎に行って、いろんなことを学ぼうという気持ちが高まりました。

いよいよ、3泊4日の長崎平和学習が始まりました。まず、一番最初に驚いたことは、平和祈念式典に参加する人が関東地方からもたくさんの方が出席すると知ったことです。同じ飛行機で前に座っていた女性からお話を聞いて知りました。また、核兵器を訴えるTシャツを着ている人も見られました。

2日目に行われた班別フィールドワークでは、ボランティアの方が原爆によって破壊されてしまった建物やその当時を知ることができる資料館などに連れて行って下さいました。破壊されて像の首がないものもあれば、もうすぐ川へ落ちてしまいそうなものなど、その当時から何も変わらないで残っているものなどがたくさんありました。実際に自分の目で見ることは初めてだったので、見た時は言葉が失ってしまいました。戦争を甘く見てしまっている自分がいたと思います。

中でも印象が強かったのは、浦上天主堂の被爆マリア像です。これは、私が事前学習で調べたものです。原子爆弾が落とされる前は両眼には青いガラス玉、水色の衣をまとった2メートルの木製の美しい像でした。しかし、原爆で破壊されてしまい、目が溶けてなくなった頭の部分だけが見つかりました。その像は今も天主堂に置かれています。写真で見た時よりも悲しそうな顔をしていたなと思います。

3日目の平和祈念式典では、想像以上に多くの方が集まっていました。被爆者代表の方のお話で「爆死してしまった父の頭の遺骨を持って帰ろうとしたら、半焼けの脳みそが出てきた。兄と悲鳴を上げて逃げてしまい、父の遺体を見捨ててしまった。」というのを聞きました。もし、自分がそのような立場にいたら、何ができるのでしょうか。そんな世界が74年前にあったなんて考えられません。家族と離れ離れになってしまう、大切な人を失ってしまう、全部跡形もなく燃えて消えてしまう……。このようなことが、二度と起きないようにするには、私達には何ができるのでしょうか。

私は、一人でも多くの方が戦争と平和、未来についていろんな人と話し合い、考えていけばいいと思います。74年経った今、被爆者の人数も減り続けており、「戦争の恐ろしさ」も目を追うごとに風化していっています。私達が今、こうして生きられるのは被爆者の方達が自分の未来のために、そして、誰かの未来のために訴え続けてくれたからです。

私達もそのバトンを受け取り、後者へと伝えていくべきです。私も真の平和を目指すためにいろんな人に伝えていこうと思います。

この4日間を通して、「平和とは何か」を自分なりに答えを見つけることができました。「平和」とは、互いに助け合い、みんなが幸せになれる、そして、世界中のみんなのでつくり上げていくものだと思えます。

まだ、世界にはたくさんの核兵器があります。私達に関係ない話ではありません。みんなで「真の世界平和」を築き上げていくためにも、将来について話し合い、考えていきましょう。

「派遣報告書」 丹治 ころ

私が平和学習青少年派遣事業に参加した動機は、昨年、長崎に行った先輩方の話を聞いて、自分も現地に行って平和について学びたいと思ったことです。以前から、広島と長崎には日本人として一度は行くべきと思っていたので、良い機会だったと思います。

平和学習青少年派遣事業で一番印象に残ったのは、青少年ピースボランティアです。青少年ピースボランティアは全国各地から約400名の人たちが参加しました。学校のクラスメイトや家族と平和について話すことはありますが、全国から来た小中学生たちと同じテーマについて考え、一緒に行動することはとても貴重な経験だと思います。様々な人たちがいるので、ユニークな意見や自分では考えられなかった意見が聞けました。例えば、2日目のセクション3の「平和とはなんだろう」というテーマでは、お腹いっぱい食べられたとき、戦争のような争いがないこと、思いやりをもつこと、他人を思うことなどの意見がでました。

私は、「平和」への考え方一つでも多くの考え方があり、自分と異なった考え方も受け入れることも、平和につながるのではないかと思いました。また、フィールドワークでは、自分たちが行けていなかったところ、聞けなかったことが聞けました。長崎刑務所浦上刑務支所跡では、建物の下の部分しかなく、当時の悲惨が生々しく感じられました。やはり、インターネットや本で見ると、実際に自分の目で見るとでは、感じ方が大きく異なりました。この場所は日本人だけでなく、外国の人々も亡くなりました。核兵器は、日本だけではなく世界にも大きな影響をあたえたと思います。身体的、精神的にも大きな傷が残ったことはかわいそう、大変だではすまされないと思います。悲惨すぎて、もう言葉がでてきません。何も感じないわけではないですが、言葉に表すことのできない感情になりました。原子力爆弾が長崎にもたらす被害は、想像以上のものでした。記念館や資料館で見た物の状態がとても良くて驚きました。そこから、私は日本だけでなく世界中の人々に、このことを伝えるために大切に扱われてきたのだなと思いました。資料館には思っていたよりも多くの外国人が来館していて、とてもうれしかったです。私は、世界の人々が広島・長崎に来て、原爆について知ってもらうことが平和への第一歩だと思っています。まず、知ることから初まり、それを知って、何かを考え、何かを感じ、最終的には行動に移せたらベストな流れだと思います。行動に移せなくても、知って考えてもらうだけでも、現地の方々は嬉しいと思います。私は行動に移したいと思います。具体的には、地域文化祭で平

和学習青少年派遣事業について発表し、入船地区の小中学生をはじめとし、地域の方々が「平和」について考えるきっかけをつくっていくことです。

平和学習青少年派遣事業へ行く前と行った後で、「平和」への考え方で変わったところは、自分たちの若い世代が伝えることがどれほど重要かということです。私は、小学5年生ぐらいから原爆についての写真を見てきましたが、その時から行く前までは「こんなこと二度とあっちゃいけない」などと思っていました。しかし、長崎で築城昭平さんの話を聞いて「このことを伝えなければ」と思いました。原爆が投下されて74年。当時、被爆した方々は、どんどん少なくなってきました。そのような状況で私たちは、若い世代が伝えていくべきだと考えます。知ることからはじまり、伝えることができれば世界平和につながることでしょう。

私は、平和学習青少年派遣事業に参加して本当に良かったと思います。多くの出会いがあり、笑いもあり、美味しいご飯もあり、とても充実した4日間でした。本当に楽しかったです。ありがとうございました。

「原爆の恐ろしさと、どうか意識して欲しいこと」 大島 蓮央

私は、派遣事業全体を通して、平和について感じたことや学んだこと、長崎に行く前と行った後で、平和に対する考え方の変化、今後、この事業での経験を活かしてやってみたいことがあります。順を追って説明します。

まず、感じたことや学んだことです。私は、原爆についての知識が皆無のまま、長崎に行った訳ではありません。事前準備としてある程度のことは勉強してから行きました。

印象に残るものがたくさんありました。例えば、爆心地公園。ここには、その当時の被爆した建物が残されていたり、中心地碑があったり、ここから数キロ離れたところまで、人が次々と死んでいったなんて、想像もつきません。さらには、平和案内人という、被爆した人のお話を聞くこともできました。それでは、詳しく見ていきます。

まずは、爆心地公園です。爆心地公園には、原爆落下中心地碑や浦上天主堂遺壁、原爆当時の地層、下の川などがあります。最初に、原爆落下中心地碑です。74年前に、この場所で何が起きたのかを平和案内人に聞きました。中心地の上空500メートルで原爆が爆発し、熱線は3,000度～4,000度といわれており、爆風は秒速440メートルといわれています。約15万人が負傷・死亡しました。プルトニウム236が出す放射線は、人の体の細胞を内部から壊していきます。熱線が届かないところでも、一瞬で脱水症状が出て、血流が流れなくなります。そして、水を求めて川に飛びこむ人がたくさんいました。次に、浦上天主堂遺壁です。これは、よく見て、触れることができました。すると、1.5センチくらいずれているのです。どのようにして、浦上天主堂の壁がずれてしまったのかというと、すさまじい爆風が建物の壁をずらしているのです。ここでは、風のみで丈夫な建物も動いてしまうのが感じられます。次に、被爆当時の地層です。被爆当時、ここには人々の暮らしがありました。地層にはどんなものが見えるのかというと、私たちが使っているものと同じ、茶碗やペンチ、一度は目にしたことのある瓦などがありました。今も、こうして形として残っているのです。次に、下の川です。被爆当時、どのような様子だったのかというと、水を求めて川に飛び込む人々であふれていました。不純物が水面に浮いていたにも関わらず、水を飲んでいました。次に、平和記念像についてです。右手と、左手と、軽く閉じた目はそれぞれ何を表しているのかというと、天を指す右手は原爆の脅威を、水平に伸ばした左手は平和を示し、軽く閉じた目は、戦争犠牲者の冥福を祈っています。意味を知って見ると、

心に重く響くモニュメントでした。全世界中の人に見て感じてほしいです。

次に、長崎に行く前と行った後で、平和に対する考え方の変化についてです。私は、長崎に行く前までは、平和とは、生き物が自然に生死サイクルをするものだと思っていました。そして、長崎から帰ってきたときに、もう一度、考え直してみました。すると、前とは違い、人々がお互いを助け合い、認めようとする精神を持つことが平和だと考えるようになりました。非核平和を目指すためには、「思いやり」が必要なのです。これは、小学校のときに聞いたようなセリフですが、世の大人はできていないのです。こんな当たり前のことができていないのは、とても恥ずかしいことだと私は思います。

最後に、今後この事業での経験を活かしてやってみたいことです。私は今まで、こんなに大きな事業に参加してことがありませんでした。しかし、この事業をやることによって、もっと遠いところの歴史を見て、感じられるのが、おもしろくてたまらないのです。なので、次に、同じような事業があったら、積極的に参加したいです。また、この事業では、他県の人と話し合う機会が与えられます。ここで、私は初めて会う人と仲良くできるスキルをつけたので、それを活かしていきたいです。

「長崎で学んできたこと」 高柴 由奈

私は8月7日から10日まで、平和使節団として平和について学ぶために長崎県に行ってきました。

1日目、長崎に着いて、まずグラバー園を見学しに行きました。開港した日本に近代化の風を送り込んだ冒険商人であるトーマス・ブレイク・グラバーの像や、長崎のお祭りで使われる長縄くんちの道具を見たりすることができました。石畳の中にあるハートストーンも見つけられて良かったです。旧グラバー住宅を見たりしました。歴史的な人物が住んでいた場所に自分が足を踏み入れられたことが、すごく嬉しかったし、メンバーとの仲が深まって良かったです。1日目の夜、メンバー全員で遊んでいました。みんなが笑顔で良い関係を築けて良かったなど改めて思うことができた夜でした。

2日目は、班別行動で平和案内人の新崎さんと一緒にフィールドワークを行いました。原爆落下中心地を見たとき、ここに原爆が落ちたら、この近くにある防空壕に逃げている人はどうになってしまうのだろう、今のように普通の生活とたくさんの人々の命が奪われてしまうのは本当に怖いと思いました。そして、今、自分達が生活できているのは本当に素晴らしいことであり、とても幸せなことだと思えることができました。長崎市内を歩いている時に、よく原爆が落下した時間が書かれている置物を見かけました。それくらい戦争のことを忘れてはいけない、後世の人にそのことを伝えていかなければいけないという、昔の人の熱い思いがよく伝わってくるような気がしました。フィールドワークの後には、青少年ピースフォーラムに参加しました。全国から集まった小中学生・高校生と意見を交換し合うことで、平和への考え方や戦争・原爆への思いを深めることができました。被爆者である築城昭平さんの講話を聞いて、自分の知っている人達の行方が分からなくなったりするのは、もし自分だったら耐えられないし、戦争は人々の幸せを壊していくから、絶対に繰り返してはいけないと思いました。世界を平和にするためには、自分達が身近な人から核兵器について、平和の大切さについてなどを伝えていかなければいけないことが分かりました。平和記念像は、右手が原爆で、左手が平和で、軽く閉じた目は原爆で亡くなられた方々への冥福という意味があることを知ることができました。いつもテレビなどで見ていた像には、平和への願いが込められているということを学校での発表でしっかり伝えられたらいいと思うし、その意味を知っている人が、また一人増えるのは、世界を平和にしていく第一だから、ピースボランティアの方達のような活動に積極的に取り組め

るようにしたいです。2日目の夜に、ピースフォーラムに参加した小中高生と交流会をしました。全国から集まってきた人達と平和について学べるのは一生に一度しかないと思うので、本当に貴重な体験をさせてもらい、良かったと改めて思うことができました。

3日目は、平和祈念式典に参列しました。今年で被爆74年目を迎えた日本は、今も戦争の後遺症で苦しんでいる人がいるということを忘れないで生きようと思いました。被爆者の歌は、『まだ戦争をしている国がある。核兵器を持っている国がある。このままではいけない。どうにかしなければいけない。』と私達に語っているように聞こえました。核兵器を持っている国や戦争をしている国への呼びかけなどの対策を行ってほしいです。そして、早く世界が平和になってほしいです。平和祈念式典が終わった後、ピースフォーラム（2日目）に参加しました。12班に分かれ、意見交換などを行いました。具体的は改善策などを考えることで考えを深めることができました。

4日目は、立山防空壕を見学しに行きました。中にはとても頑丈に出来ていて、風が通り抜けるので寒かったです。私は、防空壕は小さな巣のような感じで、中は狭く、そこにたくさんの人が入るようなイメージがあったのですが、実際に入ってみると広くてたくさんの部屋があり、上につながっているはしごなどがありとても驚きました。とても頑丈なのに人が亡くなってしまうという事は、原爆はものすごい力があるという事を自分の目で確かめることができました。

今回の派遣学習を通して、長崎に行く前は核兵器を持っている国は、数か国ぐらいだと思っていたけれど、実際に被爆者のお話しを聞くと沢山持っている国があると分かり驚きました。それと同時に、戦争は二度と起こしてはいけない、日本を最後の被爆地にしなければいけないと強く思いました。核兵器などの問題は、簡単に解決できないからこそ、被爆者などの意見に耳を傾け、少しずつ解決していくことが大切だと思います。今回学んできた事を身近な人から伝えていき、近いうちに世界が平和になるようにボランティア活動や全校での発表などを行っていけるようにしたいです。原爆や戦争について学んだことで、たまに、『自分は全然幸せじゃない。』と思っていたことは間違っていて、今、この世界で生きていて普通に生活していることが、本当の幸せであることを知りました。今回の体験を無駄にせず、これからにつなげていけるようにしていきたいです。

「原爆の恐ろしさ」 高山 彩花

8月7日から8月10日まで、長崎に平和学習をしてきました。1日目は、グラバー園を見てとてもきれいでした。グラバー園は、安政6年の長崎開港と同時に来日したグラバーが建てた建物です。外国の文化の建物があって、日本とは違う雰囲気でした。2日目は、フィールドワークと長崎資料館、青少年ピースフォーラムをしました。フィールドワークは、私達の班は旧城山国民学校校舎を中心としたフィールドワークでした。被爆した一部の校舎を残してあり、中は黒くなっている場所などあり、原爆の火の熱さがわかりました。嘉代子桜という校舎にいて亡くなられた林嘉代子さんのお母さんが、娘が好きだった桜を植えたものを見ました。嘉代子さんのお母さんが娘のことを思って、桜を寄贈したと思うと、その桜の木がよりきれいにみえそうだと思います。次に、少年平和像を見ました。ここの学校に通っている子ども達は、毎日、平和への願いをこめて拝礼をしているそうです。そして、小学校では、防空壕跡がたくさんありました。防空壕に入ったからといって、必ず安全というわけではないということを知るととても驚きました。入り口の近くの方だと熱風が飛んできて火傷などをしてしまうそうです。フィールドワークを説明して下さった方は被爆者で、その時のことや自分の目で見たものを教えてください、原爆の恐ろしさが伝わってきました。長崎原爆資料館では、色々なものを見ることができました。原爆が落ちた時の映像を見た時、きのこ雲がすごくて大きなけむりのようで、とても恐ろしさが伝わってきました。長崎型原爆の実物大模型を見て、とても大きくてびっくりしました。あんな物が空から落ちてきて爆発すると思うと、とても怖いと思いました。原爆の被害で火傷などした人の写真があって、どれも今の世界では考えられないようなひどい怪我をしていて、原爆の恐ろしさが一番伝わってきました。3日目は、平和祈念式典と青少年ピースフォーラムに参加しました。平和祈念式典は初めて参加して、いつもテレビで見っていたのを自分の目で見て、良い経験ができました。青少年ピースフォーラムでは、グループに分かれて原爆について話し合いました。自分とは違った意見が聞けてとても勉強になりました。4日目は、立山防空壕を見学しました。防空壕は一つの部屋しかないと思っていたのですが、本物の防空壕はとても大きくて、部屋がたくさんありました。伝令室や通信室などもあって驚きました。4日間長崎に行ってきたたくさんのことを学ぶことができ、とても良かったです。

私の長崎に行く前と行った後で変わったことは、行く前は、原爆ということが

自分の中であんまり現実感がなくて、自分には関係ないことだと思っていました。しかし今回、長崎に行ってから原爆や原爆の被害などを学んで、日本で原爆が落ちたからこそ、この原爆の恐ろしさを知ることができて、この原爆や戦争が二度とおこらないように、一人一人全員が知る必要があると思いました。世界の全員がこの原爆の恐ろしさを知ったら、原爆を持っている自分の国に不満を持つような人もでて、原爆のない世界になるのではないかなと思いました。原爆の怖さを知らない人が少しでも減って、平和な世界になったら良いと思いました。そして、私も知らない人に伝えられるようになりたいなと思いました。

「派遣報告書」 松尾 晴菜

私は、中学三年生の夏、浦安市平和使節団の一員として、長崎派遣に参加させていただきました。

私は、最初、参加するつもりは、全くありませんでした。なぜなら、平和が大事だということはわかっているし、受験生だから、何度も一日中、研修するのは気が向かないなど思ったからです。何より、派遣後にこの報告書を書くときいたので、それが嫌だったからです。嫌だった理由は、こういうように、平和について文章化して書くと、自分の中で、平和に対して、戦争に対しての自分の気持ちが薄くなる、弱くなる、そんなような気がするようなので、平和について文書化するのが嫌だからです。でも、最終的には、学年主任の先生にしつこく誘っていただき、長崎派遣に行けて、良かったなと思いました。

最初に集まったのは、6月15日、土曜日に行われた第1回オリエンテーションでした。その時は、私は、席が一番前だったこともあり、あまり皆のことをみることが出来ず、第1回オリエンテーションの後には、多少の不安がありました。

次に集まったのは、だいぶ時間が空いて、8月1日、水曜日の第2回オリエンテーションでした。このときは、班での活動があり、班の人と仲良くなれて良かったです。結団式がありました。このとき、誓いの言葉のようなものがあつたのですが、それを2年生に任せてしまったので、たとえ一つ差でも、年上は年上にかわりないのだから、私がやりますといえば良かったなと少し後悔しました。この第2回オリエンテーションで、事前に集まるのは最後でした。

次は、遂に、長崎派遣です。飛行機で長崎まで行きました。到着後、グラバー園というところに行きました。そこでは、一つの住宅が工事中で見られなかったり、みんなばらばらになりすぎたり、道順がわからなくなったりと、多少のトラブルはあったような気がします。長崎市内を一望できる場所があり、やっぱり浦安市とは、つくりが違うなど実感できて良かったです。

2日目は、午前、平和案内人の方に、班ごとに分かれて、フィールドワークという形で案内していただきました。私が調べた山王神社。この鳥居の上の石がずれているということは知っていたのですが、思ったより、ずれていて、自分の目で、実物を見れて良かったです。午後は、ピースフォーラムに参加しました。最初は、被爆体験講話を受講しました。想像よりもひどい火傷を負ったようなので、少し気分が悪くなってしまいました。その後、フィールドワークに参加しました。始まる前は、またかと思ってしまうましたが、午前中とは、違うところに行けた

ので良かったです。

3日目は、午前、平和祈念式典に参列しました。最初は、中継組だったのですが、会場にいられることになりました。中継でみるくらいなら、家でみてもかわらないかと内心思っていたので、会場でみられて、すごく良かったです。午後は、ピースフォーラムに参加しました。他の市の人、他の県の人と交流することができて良かったです。

オリエンテーションを含め、この6日間は、とても充実していました。とても良かったです。

今後、この事業での経験を活かしてやってみたいこととしては、学校の代表として行かせてもらったので、学校で、平和について、戦争について話したいです。しかし、3年生なので、残りの時間が少ないことが残念です。

最後に、学んだことではないので、ここに書くのは違うような気がしますが、この研修の対象学年を、1、2年生にするべきだと思いました。なぜなら、2、3年の間の交流はとても良いことだと思いますが、先程も書いたように、3年生には、残りの時間が少なく、学校に伝えきれかわからないからです。伝えきれないのは、もったいないと思うので、1、2年を対象にするべきだと、ここに書かせていただきました。

「平和という最強兵器」 菊島 大輔

「平和って何だろう。」と、改めて考えたとき、正直あまり浮かびませんでした。思い浮かぶのはありきたりで抽象的なもので、具体的なものは挙げられませんでした。その時に私は、「私を取り巻く環境がそう悪くないからではないか。」と思いました。極端な話、自分が平和だと思っていれば、平和について考えることもないし、わざわざ平和とはどのようなものかを言葉にしないでしょう。では、今の私と真逆の立場になったらどうするのでしょうか。

今回の派遣事業を通して、一番感じたことは、やはり平和でした。家族とご飯を食べたり、友達と遊んだり……。そんな状況が一変したのは原子爆弾の投下です。そうした平穏な日常が、一瞬にして壊されてしまったらどうするのでしょうか。私だったら、必死に平和であることを願います。ここでいう平和とは、そんな大きいことではないでしょう。「家族で笑ってご飯が食べたい」「のびのびと友達と鬼ごっこがしたい」そういった平穏な毎日を再び送りたいと思うはずです。つまり、ここでいう平和は平穏であり、そんな平和を壊した戦争は全て人間によって引き起こされました。人間の独占欲や虚栄心は、とても醜いものです。「自分があの国を占領するためには、武力を使ってでもする」と思ってしまっただけではないのです。“ペンが剣よりも強し”ということわざがあるように、我々は武力ではなく、頭を使って人と人、国と国が向き合わなければいけません。武力を使って得られるのは、多数の死者だけです。これからの世界は、武力を使った何も生まれない争いではなく、頭を使って考えるスマートな選択が必要です。今回の派遣事業で私は、武力などという考えに目を向けず、実現から目を背けない向き合い方が大事だと学ぶことができました。

そして、もう一つ学んだことは、平和という概念です。先程、平和とは平穏のことだと述べましたが、それもあまり具体的ではありません。このテーマは、非常に難しいものだと思います。世界中の人が平和に過ごせる社会を作ろうとしても、絶対に不可能です。なぜなら、今の状況がそうだからです。では、どうすればより多くの人が平和に過ごせるのでしょうか。すると、このテーマの核に迫られるはず。初めに、一人ひとりが平和について考えます。このとき、具体的でも抽象的でも構いません。そして、その考えを胸に留めておくことが最も重要です。いくら政府や環境が変わっても、自分自身が変わらなければ意味がありません。だから、自分一人だけでもいいので、自分が考える平和を、胸に留め続けて生活するのです。

そこで、あることに気付きました。平和は抽象的だとか具体的だとかの問題ではなく、決して完璧に言い表すことが出来ない特別な言葉だと思いました。だから、平和はこうあるべきだという考えを人に押しつける必要はなく、一人ひとりが少しでも平和について考え、自分なりの答えを導き出せたなら、それで十分なのではないでしょうか。

今回、実際に被爆した人の話を聞いたり、原爆で亡くなられた人の遺留品を見たりと、貴重な体験をさせていただいた経験は、決して自分の中だけで消化してはいけないと思います。私にできることは、伝承と実行です。記憶した限りのことや考えを、先生や友達、あるいは家族に“伝承”し、一人でも多くの方が平和になる行動を“実行”する。私にはこんなことしかできないが、これがもし広がっていったら、きっとすごいものができるに違いない。

「平和の実現のために」 村山 晴

僕は、今回の長崎派遣で色々なことを学んだり、考えたりすることで、平和に対してより考えるようになりました。

長崎に行く前の二度のオリエンテーションで、今の世の中の状況について色々考えました。世界各地ではどのようなことが行われていて、どれだけの被害を及ぼしているのか実感しました。そこから、平和というのは、争いの起こらない世界、だということに結びつきました。実体験でなくても、自分の知識から色々なことが考えられました。

そして、長崎派遣では、今まで知っていたことの10倍近く、多くのことを学ぶことができました。

2日目のフィールドワークでは、原爆の面影を見たり、平和案内人の方やピースボランティアの方の話を聞いたりして、当時の悲惨な様子を感じることができました。爆心地公園にある、浦上天主堂の遺壁は、爆風によって、壁がずれてしまったそうです。爆風だけで建物がずれたり、崩れたりしてしまう兵器が何万もあると思うと、ぞっとしてしまいます。また、浦上天主堂のすぐ近くには、浦上天主堂の当時の鐘楼がありました。原爆によって崩壊し、落下してきた鐘楼だそうです。これら二つのものから、原爆の強さというものがより伝わってきました。また、現在の原爆は勿論、当時のものより強いです。これより大きな被害を出させないようにしていきたいと思いました。

被爆者の一人である永井隆博士。放射線の研修で白血病となり、余命3年と宣告された2か月後に被爆します。医者として動けなくなった博士は、原爆による病気の研究をしたり、平和を訴える本を書いたりしました。博士は亡くなるまで、平和を訴え続けました。この方が平和を世界中に訴えたことを胸に、僕達は平和を訴え続けなければならない使命があるのではないかと思います。

8月9日の平和祈念式典で色々な方が、平和について訴えました。しかし、そんな中でも核実験が行われていたり、核が増え続けていたりしています。一刻も早く、非核に向けて動いていかなければなりません。被爆者合唱団「ひまわり」の方々が歌っていた歌の歌詞の一つ一つのメッセージがとても心に刺さりました。被爆者の訴えでもある歌を胸に、生きていきたいです。

被爆者の方々は年々歳をとっていき、2019年の平均年齢は82歳を超えています。被爆者の方々のためにも、一刻も早く核の廃絶をしなければならないと思います。そして、核の恐ろしさを、僕達と同じ世代の知らない人達に、これから生まれて

くる人達に、世界中に広めていかなければならないと思い、すぐにでも動けるようにしていきたいです。

果たして本当の平和とは何なのかという絶対的な答えを導くことはできませんが、一つだけ言えることがあります。本当の平和というものは、世界中の人々が思っている平和は、どれも世の中を明るくするために大切だということです。ピースフォーラム2日目の意見交換会で、色々な人の平和というものを知ることができました。小さな一つのことを平和のためになっていくと思ったので、小さな思いやりが大事になっていくと思います。

一人の人として平和に結びけられることをすることはとても簡単だと思います。環境を大切にすること、ボランティアをすることなど、一つ一つのことに気持ちを込めてやっていく事が大事だと思います。

今回の派遣事業で、僕は、同じ世代の人達より多くのことを学ぶことができました。今の僕にできることは、学んできたことを広めることです。あまり、まだ大きくない僕達には、同じ地域の人達に、戦争が起きていたこと、原爆が投下されたこと、その時の被害者の状況を広めていくことはできます。事実をしっかりと伝えて、原爆に対する関心を持ってほしいと思いました。

過去を学び、現在に伝える、未来に伝えていくことは本当に重要になっていきます。大人になったら、もっと平和に対して関心を深めていくために、もっと多くのことを学びに行き、世界中の人達に伝えていきたいです。

たとえ、世の中が平和になったとしても、原爆が投下されたという事実には変わりはありません。そんな世の中を続けていくためにも事実をしっかりと、世界中の人達に伝え、未来にも伝えていってほしいと思いました。

自分にできることを探し、より早く平和にするために必要なことを考えて、実行していきたいと思います。

「派遣報告書」 堀場 ゆりか

私は、8月7日水曜日から8月10日土曜日まで市の代表として、長崎県へ平和について学ばせていただきました。長崎では様々な活動を通して、平和の尊さについて仲間と共に学ぶことができました。

8月7日水曜日。この日は、浦安市から長崎県へ行くために、バスで羽田空港まで行き、そこから飛行機で長崎空港という流れで長崎に到着することができました。およそ2時くらいにホテルに着き、すぐにグラバー園へ出発しました。グラバー園は緑で囲まれていて、とても気持ち良かったです。グラバー園内の建物の中にはたくさんのパネルや、モデルの船がおいてありました。モデルの船をみると、1953年アメリカの黒船が特に大きく目立っていました。建物の外には、複数の小さな池があり、パネルを見た後に池の周りを歩くと、水は大切だと思いました。夕食はホテルで食べました。食べきれないほどたくさんの美味しい料理が出されてすごくびっくりしました。長崎の野菜はシャキシャキしてとっても良かったです。

8月8日木曜日。この日は主に、班別フィールドワークとピースフォーラムに参加しました。班別フィールドワークは、福田須磨子詩碑、長崎原爆朝鮮人犠牲者碑、電停石垣、旧城山国民学校へ行きました。はじめの2つはあまり大きくはありませんが、戦後苦しんだ人の気持ちが強く書かれていました。旧城山国民学校では、「喜代子桜」と「被爆のカラスザンショウの木」を見学しました。喜代子桜とは、旧城山学校の若い先生で、当時は家が遠かったのに、わざわざ電車を伝って遠くまできたら、原爆にまきこまれて死んでしまいました。そこで母親が娘の喜代子が忘れられてもらわないように「喜代子桜をうえました」。もうひとつの「カラスザンショウの木」は、喜代子桜より迫力はないが、細く、黒い木をみると、爆弾の強さを少しだけ予想することができました。

その後、青少年ピースフォーラムに参加しました。そこでは、被爆体験講話に参加、フィールドワークに参加し、交流会を行いました。被爆体験講話では、実際に被爆された方の恐怖だとか、苦しみが少しわかりました。フィールドワークでは同世代の若い人たちが、どんな事を思って生活しているのか。また、戦争や平和についてどんな考えを持っているのかがわかりました。交流会では、一緒にピースフォーラムに参加した子とご飯を食べて、歌ってすごく楽しかったです。この日はすごく忙しかったため、帰ったらすぐに寝てしまいました。

8月9日金曜日。この日は、平和記念式典に参列し、青少年ピースフォーラム

(2日目)に参加しました。平和祈念式典では、地域の子供たちが平和に関する様々な歌を歌ってくれました。ピースフォーラム2日目では、1日目よりもたくさん話し合うことができました。ピースフォーラムボランティアの人たちを中心とし、平和の尊さについて改めて考え直すと、浦安にいたときと少し変わりました。この日もこれで終わり、ホテルに戻り、夕食を食べました。

8月10日土曜日。この日は、長崎県立歴史文化博物館、立山防空壕を見学しました。博物館は思っていたよりも、ずっと大きくびっくりしました。映像やパネル、実物の戦争のカケラなどのものからさらに、平和についての考えもかわっていきました。防空壕はすごく暑く、せまくて本当に身を守れるのだろうかという疑問に思ったが、昔の人々はこの薄い壁に恐怖を覚えながら生きていたことを知り、自分の胸も苦しくなりました。

私はこの長崎派遣に行き、平和の尊さと、人々がどれほどの恐怖があったのか、そして、戦争はあってはならない、ということがわかりました。このことを友人や家族に共有し、少しずつ非核化に向けて努力をして行おうと思いました。

「派遣報告書」 鈴木 心々和

平和学習派遣事業は、3泊4日で合計4日間長崎へと行ってきました。

初日は、羽田空港から長崎空港へと向かい、長崎空港からはリムジンバスでホテルへと向かいました。ホテルに到着した後には、路面電車でグラバー園へと向かいました。グラバー園に到着したすぐには、上斜め45度に傾いているエレベーターがありました。上に着くと、すごい絶景が広がっていました。グラバー園内で私は、旧三菱第2ドックハウスを見学することが出来ました。この建物は、内側も外側も洋風に出来ていました。そこでは昔、乗組員たちが船の修理をしている間に宿泊する場所となっていました。グラバー園は、世界遺産に登録されています。グラバー園内でも特に有名なのが、旧グラバー住宅だと思います。その住宅も、内側は洋風に出来ていますが、日本の伝統的な方法で出来ています。申し遅れましたが、グラバーとは人名であります。そのグラバーさんは戦争に、日本の水産を復興させるために活躍した人です。

2日目には、原爆落下中心地がある平和公園に行き、平和案内人さんに平和公園を案内してもらった後に、その周辺へと案内してもらいました。平和公園には、当時被爆をした浦上天主堂の一部と、被爆地の一部が当時の状態のまま残されていました。そこには、家具などがまぎれていました。その次に行ったのが、浦上天主堂です。そこでは、被爆マリア像が残されておりました。マリア像とは、アメリカの宗教でもあるキリスト教の生神女の像です。日本にもキリスト信者がいました。次に行ったのが如己堂です。如己堂とは、医者だった永井隆さんが放射能によって体が弱くなってしまっていた時にいた場所です。そのまま、そこで亡くなりました。如己堂の名前の由来は、「己の如く人を愛せよ。」という言葉でした。その次には、山里国民学校防空壕へと向かいました。その学校は夏休みだったため、多くの人が無くなってしまい、生き残ることが出来た人は、すごく近くにあった防空壕に逃げる事が出来たそうですが、生き残ることが出来た人でも、放射能による後遺症などによって苦しめられました。

案内終了後には、青少年ピースフォーラムに参加し、被爆体験講話を聴講しました。そこでは、私の一番知りたかったことがわかったような気がしました。それは、戦争の恐ろしさです。最初は皆、原子力爆弾が爆発してしまい、多くの人が無くなってしまふことだと考えるでしょう。それは勿論そうなのですが、私が一番心にきた言葉は、その亡くなった人の親族や身近な人たちの傷が深いと言うことです。じっくりくるか、じっくりこないかは、人それぞれだと思います。

そして、3日目には平和祈念式典に参加させていただきました。そこで私が思ったことは、戦争の恐ろしさを忘れてはいけない、ということです。それは、もう二度と起きてほしくないからこそ思ったことだと思います。原爆体験者がいなくなってしまうことによって、段々と、遠い存在のようになってきていると思います。そこで、私たちが出来ることは、伝えることです。いなくなってしまった分、詳しいことは、分かりませんが、実際に聞いて、伝えることが出来ると思います。平和祈念式典後には、各班に分かれて全国の中高生で戦争について理解を深めました。

そして、最終日の4日目には、立山防空壕へ行き、実際に中に入って見学をしました。そしたら、とっても暑苦しく、当時も真夏だったため、このように暑苦しかったのかな、と体験することが出来ました。

私はこの平和学習で、戦争についての知識を深めることが出来たと思います。なので、その知識を次の世代へと有効活用をしたいと思いました。

「長崎派遣事業を終えて」 石渡 眞英

僕は、8月7日から4日間、浦安市平和学習青少年派遣事業で長崎に行ってきました。

派遣事業1日目では、グラバー園に行きました。

グラバー住宅は世界遺産で、トーマス・ブレイク・グラバーさんという、開港した我が国に近代化の風を送りこんだ冒険商人です。

グラバー園をまわって、長崎は外国との交流がさかんな地なのだなと思いました。このことから、平和には交流（コミュニケーション）が必要だということを知りました。

2日目では、平和案内人の案内を受け、爆心地や山里小学校などの被爆建造物を見学しました。

一番印象に残ったのは、浦上天主堂です。

平和案内人によりますと、この浦上天主堂は30年かけて作ったのが、20年後には、原爆によって、ほぼ跡形もない状態になって、残った建造物は、原爆資料館に展示されている浦上天主堂の入り口（門）の部分と、爆心地の近くにある柱、そして、いくつかの木像だけだそうです。

このことから長崎の原子爆弾の威力と怖さを知り、このような核兵器が戦争をしている国のあちらこちらで使ったら、この星が滅亡するなと思いました。

2日目の後半は、ピースフォーラムに参加し、被爆者の講話を聞きました。

被爆者の講話は、50分かけて戦争の時の様子や生活、原爆投下直後の様子、町や人がどんなだったかを話しました。

これを聞いて、戦争の時の人々の苦しみを学びました。

この後の交流会では、1日目の学びを活かすことができ、他の地域の人と交流することができたと思います。

3日目では、平和記念式典に出席しました。

平和記念式典では、長崎平和宣言や平和への誓いなど平和に対する思いや言葉がありました。

この式典に参加して、平和にしようという意志、平和でありたいという願いが強くなったと思います。

3日目の後半は、ピースフォーラムの参加型平和学習に参加しました。

参加型平和学習では、他の地域の人と交流をしながら平和について考えたりしていく学習です。

僕は、ここで平和とは全員が一つになり、争いがないことということを知りました。そして、平和にするために一人ひとりができることで『全員が笑顔でいること』や『一人ひとりが互いの個性を認め合うこと』という意見を班に出しました。

4日目（最終日）は、長崎歴史文化博物館と立山防空壕を見学しました。

長崎歴史文化博物館は、戦争・原爆と深く関係しているわけではありませんが、島原・天草一揆の事や出島での貿易の事など長崎でおきた歴史の有名で大事な1ページがたくさんつまっていました。

その中で一番気になったのは、種子島がちょこちょこ出てきたことです。理由は、種子島は鹿児島県の島なのに、なぜ、長崎に種子島のことが書いてあるのかというところです。

この長崎歴史文化博物館に行って、長崎の歴史がもっと深く知ることができたと思います。

立山防空壕長崎防空本部では、2つのことを感じました。

1つ目は、怖いということです。怖いにも、いろいろ種類がありますが、僕が感じた怖いは、あんな穴の奥深くにいたら、外でいつ、何が起きるか分からないという恐怖です。

2つ目は、防空壕の中にいた人々の苦しみです。

当時はエアコンも扇風機もないのに真夏にあの洞窟の中にずっといる、そして、原爆が投下された時は、太陽にいるような温度（3,000度～6,000度）であの洞窟によくいられたなと思いました。他に暗くてせまい、地面がぬれていることに気づき、当時の人は、生きるのに必死だったことが分かりました。

このことから生きるためには、生きることに必死にならなければならないことが分かりました。

この派遣事業を終えて、長崎に行く前と後では自分でも分かるくらい、平和に対する意思が強くなりました。

今後、平和、戦争に関するボランティアなどがあったら、積極的に参加していきたいと思います。

「報告書」 安原 千代

私は浦安市平和学習青少年派遣事業で、数多くのことを学ぶことができました。そして、平和に対する意識が大きく変わり、現在の平和な世界があることに感謝をしなくてははいけないと思いました。

私は小学生の頃、原爆投下後の広島・長崎の写真を見てとても衝撃を受けました。その写真を見た日の夜は寝ることができませんでした。しかし、「あのようなことが日本で起きたなんて、知らなかった。まだ、自分が知らないことがあるはず。もっと多くのことを、詳しいことを知りたい。」と思いました。

今回の事業に参加しようと思った時、小学生の頃の恐怖を思い出しましたが、だからこそ、この事業に参加し、より多くのことを、詳しいことを学びたいと思いました。

事業に参加している中で、青少年ピースフォーラムの被爆体験講話を聴講しました。私は、話を聞いて多くのことに驚きました。当時、正義の戦争だと教えられたこと、当時の長崎の人口の半分以上がその年までの犠牲者や負傷者になったことなど、現在では考えられないことが当時、実際にあったことを知りました。

原爆者の方から色々な話を聞き、胸が締め付けられるような気持ちになり、「この話は、絶対に後世まで伝えなくてははいけない。」と強く思いました。

また、平和祈念式典では多くの人々が参加し、平和を願いました。式典には、外国から来た人や、遺影をもった人など、本当に多くの人々が参加していました。また、被爆者合唱は歌詞一つ一つが胸につきさりました。

事業の間、友達と話していて気付いたことがありました。原爆資料館を見学し、いつもと同じように話している時に、原爆資料館の写真を思い出し、「これが平和なのかな。」と思いました。友達と、原爆におびえず、笑いながらのびのびと暮らすことが、当時の人々の理想だったのかもしれない、と複雑な気持ちになりました。

今の日本は、本当に平和な国だと思います。もしかすると、自分たちは平和に暮らしていると気付いていない人もいるかもしれません。だからこそ、平和とは何なのか、もう一度振り返ることも大事だと思います。

何かをつなげていくには、「三代目」が重要だと思います。室町時代、約150年間続いた室町幕府の三代将軍は、南北朝を統一させ、明との勘合貿易を成功させました。また、江戸時代250年間も続いた江戸幕府の三代将軍は、参勤交代を定めるなど多くの功績を残しています。

私たちの世代は、おそらく被爆者・戦争を体験した方から数えて三代目だと思います。今までの歴史をみても、三代目は重要だと思います。だからこそ、私たちはこの出来事を後世に残すためにより頑張らなければいけないと思います。

今回の浦安市平和学習派遣事業では、数多くのことを知ることができ、色々なことについて考えさせられました。私は、今回、学んだことを、より多くの人に伝え、後世に残していけるように努力していきたいと思っています。

3 小学校・中学校における被爆体験講話及び非核平和パネル展 (1) 被爆体験講話

次代を担う子どもたちが、戦争の恐ろしさ、平和の尊さを学ぶため、浦安被爆者つくしの会と（公財）長崎平和推進協会会員の協力のもと、市立小学校17校で、被爆体験講話を開催しました。

被爆体験講話聴講者数は1,593人であり、多くの児童・生徒へ核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを伝えることができました。

①浦安被爆者つくしの会による被爆体験講話実績

令和元年度			平成30年度（参考）		
小中学校名	実施日	聴講者人数	小中学校名	実施日	聴講者人数
1	明海南小学校	7月8日（月） 6年生：64人	南小学校	7月12日（木） 6年生：145人	
2	見明川小学校	10月17日（木） 6年生：82人	高洲小学校	9月14日（金） 6年生：150人	
3	明海小学校	10月30日（水） 6年生：58人	明海小学校	11月1日（木） 6年生：69人	
4	日の出南小学校	11月21日（木） 6年生：100人	美浜北小学校	11月26日（月） 6年生：40人	
5	東小学校	11月22日（金） 6年生：102人	日の出南小学校	11月27日（火） 6年生：124人	
6	南小学校	11月29日（金） 6年生：185人	浦安小学校	11月28日（水） 6年生：58人	
7	富岡小学校	12月6日（金） 6年生：56人	東小学校	11月30日（金） 6年生：128人	
8	舞浜小学校	12月9日（月） 6年生：96人	東野小学校	12月3日（月） 6年生：151人	
9	入船小学校	12月4日（水） 6年生：86人	入船小学校	12月5日（水） 6年生：87人	
10	浦安小学校	12月12日（木） 6年生：52人	日の出小学校	12月10日（月） 6年生：101人	
11	高洲北小学校	12月13日（金） 6年生：103人	富岡小学校	12月11日（火） 6年生：64人	
12	高洲小学校	12月16日（月） 6年生：154人			
13	美浜北小学校	1月16日（木） 6年生：46人			
	計	1,184人	計		1,117人

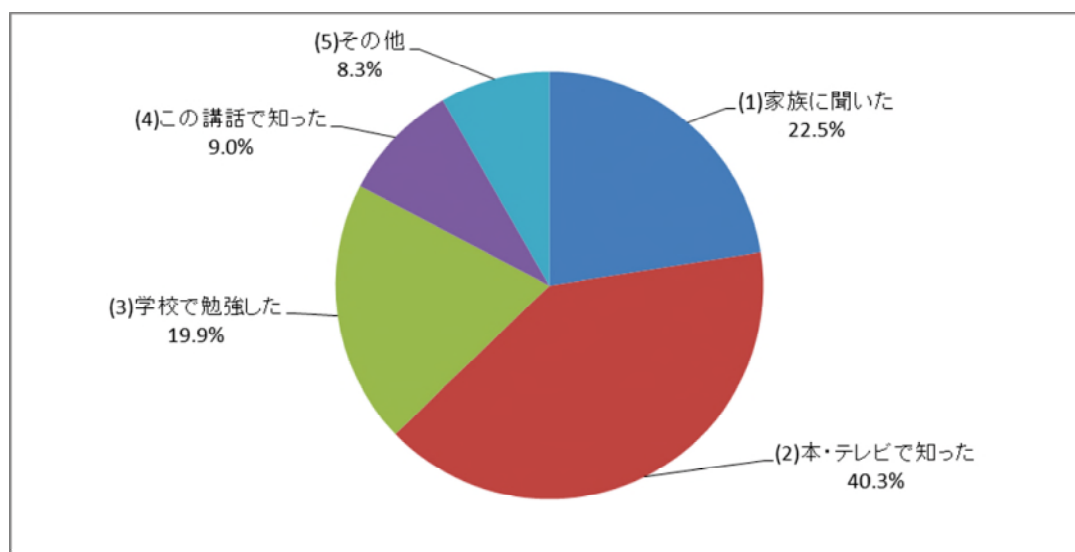
②長崎の語り部による被爆体験講話実績

令和元年度			平成30年度（参考）		
小中学校名	実施日	聴講者人数	小中学校名	実施日	聴講者人数
1	東野小学校	9月30日（月） 6年生：115人	北部小学校	9月10日（月） 6年：144人	
2	日の出小学校	9月30日（月） 6年生：106人	美浜南小学校	9月10日（月） 6年：43人	
3	北部小学校	9月30日（月） 6年生：139人	舞浜小学校	9月10日（月） 6年：122人	
4	美浜南小学校	9月30日（月） 6年生：49人	高洲北小学校	9月10日（月） 6年：87人	
	計	409人	計		396人

【被爆体験講話小学生アンケート結果】

1 広島、長崎に原爆が投下されたことをどのようにして知りましたか。 (複数回答可)

	回答数(人)	割合(%)
(1) 家族に聞いた	505	22.5
(2) 本・テレビで知った	907	40.3
(3) 学校で勉強した	447	19.9
(4) この講話で知った	203	9.0
(5) その他	187	8.3
合計	2249	100.0

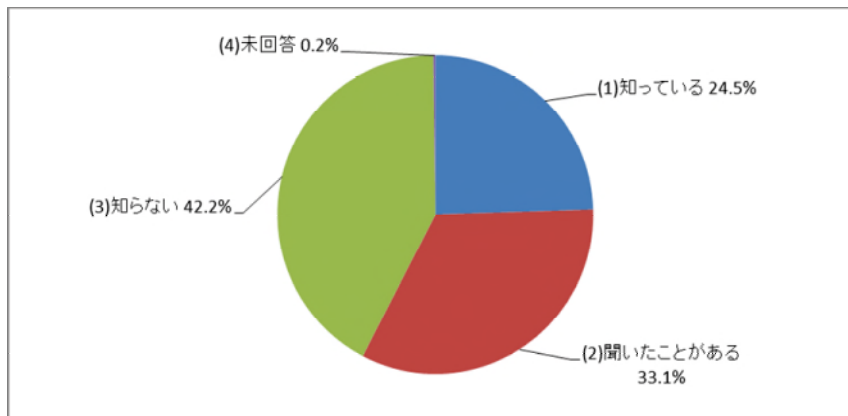


2 皆さんはどのようなときに平和だと感じますか。(抜粋)

- ・ 家族みんなでご飯を食べているときや、お話をするとき。あと、みんなが笑顔で笑っているとき。友達とかと遊んだりするとき。しゃべるとき。
- ・ 友達と一緒に過ごしているとき。家族と過ごしているとき。
- ・ 友達と遊んだり、話したりしているとき。家族団らんしているとき。
- ・ 普段の生活で、ごく普通の生活をしているとき。
- ・ 人と人が助け合っているとき。

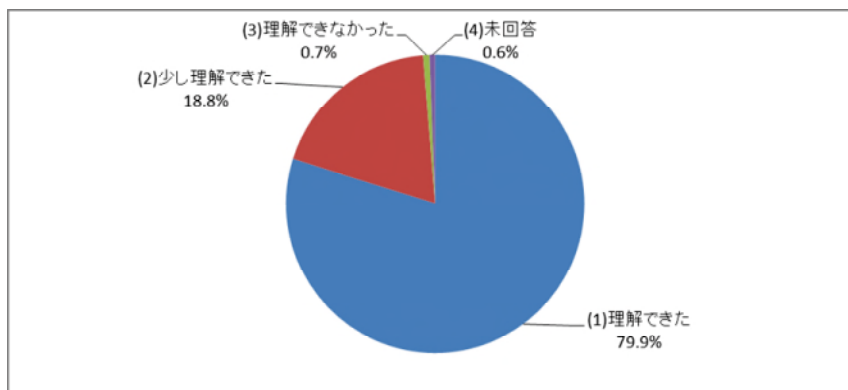
3 浦安市は、昭和60年3月29日に非核平和都市を宣言しましたが、このことを知っていますか。

	回答数(人)	割合(%)
(1) 知っている	366	24.5
(2) 聞いたことがある	495	33.1
(3) 知らない	630	42.2
(4) 未回答	3	0.2
合計	1494	100.0



4 今日のお話の内容は理解できましたか。

	回答数(人)	割合(%)
(1) 理解できた	1193	79.9
(2) 少し理解できた	281	18.8
(3) 理解できなかった	11	0.7
(4) 未回答	9	0.6
合計	1494	100



5 被爆体験講話について「ここが良かった!」「こうして欲しかった!」などあれば教えてください。(抜粋)

- ・学校などでは習わないことを詳しく、分かりやすく教えていただき、ありがとうございました。
- ・重みのある講話をきけたことが良かったです。実際に体験した方のお話を聞いたことが良かったです。
- ・学校の教科書で学習するのと、本人からきくのは違うから良かった。
- ・本当に原爆を体験した方が話すのは辛いはずなのに、体験したことや原爆の恐ろしさを詳しく教えてくれたので良かった。
- ・自分が知らないこともたくさん知れて良かった。
- ・平和になるために色々な人が協力して行っていることがよくわかった。
- ・朗読劇のとき、話しているとき、ゆっくり話してくれて聞きやすかったです。
- ・原爆自体のことについては知っていたが、実際に被爆体験者のお話をきけたのは良かった。

6 平和についてのメッセージ、感想など、ご自由に書いてください。(抜粋)

- ・僕は、平和とは、普通のことと思いついていましたが、今日、話を聴き、今は幸せなのだと思います。このまま世界が平和ならいいなと思います。
- ・私たちが今回、聞いたことを色々な人に伝えていき、ずっと平和でいたいです。
- ・お話ありがとうございました。戦争がどんなに大変だったのかを知る機会ができ、今後も戦争をおこしてほしくないと思いました。
- ・すごく分かりやすかったです。家族ともう一度、話してみようと思います。
- ・今回、原爆の話聞いて、戦争はとて怖くて、絶対にやってはいけないものだと思えたので、これからは、平和を守るために自分ができることは、積極的にやってみようと思います。
- ・私はいつもどおりの生活をしていることがありがたいと思うし、幸せに思います。原爆の恐ろしさを知ったので、被害のあった方々の力になりたいと思いました。
- ・戦争の苦しさが伝わりました。今日、聞いたことを、友達や家族に伝え、世界中の人みんなが平和に暮らせたらいいと思いました。
- ・今、聞いた話を次世代や、いとこなどに伝えて、戦争の恐ろしさをわかってもらえるようにしようと思いました。話がきけて、とても分かりやすかったので、他校にも行ってあげてください。

(2) 非核平和パネル展

市立小学校17校・市立中学校9校で非核平和パネル展を開催しました。

非核平和パネル展実施校

	令和元年度(小学校17校)		平成30年度(小学校17校)	
1	明海南小学校	7月8日～7月12日	明海南小学校	7月2日～7月6日
2	美浜南小学校	9月9日～9月13日	南小学校	7月9日～7月13日
3	北部小学校	9月30日～10月4日	北部小学校	9月10日～9月14日
4	日の出小学校	9月30日～10月4日	高洲小学校	9月10日～9月14日
5	見明川小学校	10月16日～10月23日	高洲北小学校	9月10日～9月14日
6	明海小学校	10月28日～11月1日	明海小学校	10月29日～11月2日
7	東野小学校	11月11日～11月15日	日の出南小学校	11月5日～11月9日
8	東小学校	11月13日～11月21日	東小学校	11月20日～11月30日
9	日の出南小学校	11月18日～11月22日	美浜北小学校	11月20日～11月30日
10	南小学校	11月25日～11月29日	浦安小学校	11月26日～11月30日
11	富岡小学校	12月2日～12月6日	美浜南小学校	12月3日～12月7日
12	入船小学校	12月3日～12月6日	東野小学校	12月3日～12月7日
13	舞浜小学校	12月3日～12月12日	入船小学校	12月4日～12月7日
14	高洲北小学校	12月9日～12月13日	見明川小学校	12月10日～12月14日
15	浦安小学校	12月10日～12月13日	富岡小学校	12月10日～12月14日
16	高洲小学校	12月16日～12月20日	日の出小学校	12月10日～12月14日
17	美浜北小学校	12月16日～1月17日	舞浜小学校	12月17日～12月21日

	令和元年度(中学校9校)		平成30年度(中学校9校)	
1	富岡中学校	6月10日～6月14日	見明川中学校	6月18日～6月22日
2	見明川中学校	6月17日～6月21日	入船中学校	6月21日～6月27日
3	高洲中学校	6月17日～6月28日	日の出中学校	6月22日～6月29日
4	浦安中学校	6月24日～6月28日	明海中学校	6月25日～6月29日
5	明海中学校	7月1日～7月5日	美浜中学校	7月2日～7月6日
6	日の出中学校	7月1日～7月12日	堀江中学校	7月2日～7月13日
7	入船中学校	7月8日～7月12日	高洲中学校	7月9日～7月13日
8	堀江中学校	7月16日～7月19日	富岡中学校	9月18日～9月21日
9	美浜中学校	9月10日～9月17日	浦安中学校	10月15日～10月26日

4 広島・長崎原爆被災展及び長崎の語り部による被爆体験講話

【開催趣旨】

次第に風化していく原爆・戦争の記憶を今にとどめ、核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さを、戦争を知らない若い世代や次代を担っていく児童・生徒をはじめとする多くの市民に伝え、平和の尊さを理解してもらうことを目的に、「広島・長崎原爆被災展」及び「長崎の語り部による被爆体験講話」を実施しました。

【開催期間及び開催場所】

(1) 広島・長崎原爆被災展

①開催期間

令和元年9月19日(木)～9月30日(月) ※土日及び祝日を除く

②開催場所

市庁舎1階 市民ホール

(2) 長崎の語り部による被爆体験講話

①開催日時

令和元年9月29日(日)

②開催場所

文化会館3階 大会議室

【内容】

広島平和記念資料館、(公財)長崎平和推進協会、(公財)第五福竜丸平和協会の協力のもと、原爆被災物品や原爆被災写真等の展示と被爆体験講話を開催しました。

原爆展の来場者数は629人、被爆体験講話の来場者は80人でした。

被爆体験講話では、築城昭平氏と丸田和男氏による自らの被爆体験を通して、原爆の恐ろしさ、被爆者としての生活などを市民の皆さんにお伝えしました。

5 その他の非核平和事業

(1) 親子平和バスツアー

【実施目的】

次代を担う青少年が、戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさ、そして平和の尊さを学ぶため、親子平和バスツアーを実施しました。

【実施内容】

昭和29年3月1日、太平洋のマーシャル諸島にあるビキニ環礁で、アメリカが行った水爆実験によって被害を受けた木造のマグロ漁船やその付属品、関係資料を展示している「東京都立第五福竜丸展示館」を見学しました。また、戦中・戦後の人々の暮らしを実物展示した「昭和館」を見学しました。

移動中のバスの中では、浦安被爆者つくしの会から被爆体験のお話をいただきました。

見学先

- (1) 東京都立第五福竜丸展示館(東京都新宿区)
- (2) 昭和館(東京都千代田区)

【開催日及び参加数】

- | | | |
|-----|--------------|-----------------------|
| 1回目 | 令和元年7月25日(木) | 15組36名(保護者15名、子ども21名) |
| 2回目 | 令和元年8月27日(火) | 12組29名(保護者13名、子ども16名) |

(2) 横断幕及び電光掲示板での啓発

【設置目的】

「核兵器のない平和な世界を」と記した横断幕を浦安駅前歩道橋、新浦安駅北口歩道橋、舞浜駅北口歩道橋に掲出しました。また、市役所電光掲示板で啓発しました。

【横断幕期間】

令和元年7月22日(月)～9月2日(月)

【場所】

- ①横断幕：浦安駅前歩道橋、新浦安駅北口歩道橋、舞浜駅北口歩道橋
- ②電光掲示板：庁舎電光掲示板

(3) 原爆展

【開催目的】

非核平和事業の一環として、8月6日の広島、8月9日の長崎の原爆投下日を風化させないように、原爆・戦争の記憶を今にとどめ、戦争を知らない世代へ平和の尊さ、戦争の悲惨さを伝えることを目的として原爆展を開催しました。

【開催期間】

令和元年7月23日(火)～8月23日(金) (土曜日及び祝日を除く)

【場所】

市庁舎1階 市民ホール

【内容】

浦安被爆者つくしの会の協力のもと、原爆被災写真や市民から寄せられた千羽鶴の展示などを通して、市民に非核平和の啓発を行いました。

(4) 黙とうの呼びかけ

原爆の投下日に原爆死没者のめい福と核兵器の廃絶を願い、1分間の黙とうの実施について広報うらやす(8月1日号)で市民にお願いするとともに、市役所の庁内放送で、来庁者や職員に対して呼びかけを行いました。

6 資料

(1) 非核平和都市宣言

非核平和都市宣言

真の恒久平和は人類共通の願いである。しかしながら、核軍備の拡張は依然として続けられ、世界平和に深刻な脅威をもたらしていることは、全人類のひとしく憂えるところである。

わが国は、世界唯一の核被爆国として、また平和憲法の精神からも、再びあの広島・長崎の惨禍を絶対に繰り返させてはならない。

私たち浦安市民は、日本国憲法に掲げられた恒久平和主義の理念のもとで“緑あふれる海浜都市”づくりを進めており、その実現もまた平和なくしてはあり得ない。

私たち浦安市民は、被爆40周年の節目にあたるこの機会に、非核三原則が完全に実施されることを願いつつ、すべての核兵器保有国及び将来核兵器を所有しようとする国に対し核兵器の完全禁止と廃絶を希求し、世界の恒久平和確立のため、ここに「非核平和都市」となることを宣言する。

昭和60年3月29日

千葉県浦安市

発行：令和2年3月

編集・発行：浦安市 市民経済部 地域振興課

〒279-8501 千葉県浦安市猫実一丁目1番1号